

■発行元 神戸学院大学
地域研究センター明石ハウス
■住所 〒673-0871
明石市大蔵八幡町5-23
■電話 078-995-5414
078-974-4232(事務局)
■mail akashi-h@human.
kobegakuin.ac.jp

神戸学院大学地域研究センター 明石ハウス通信

明石ハウス年表 [3] 2018-2023

神戸学院大学地域研究センターは、2002年の開設以来、明石市・大蔵地域の伝統行事や文化資源の調査などを、地域のみなさまのご協力のもとに行ってきました。2012年には、明石市大蔵八幡町に活動拠点(現明石ハウス)をお借りしました。今回は2018年から、コロナ禍による活動縮小を余儀なくされた2023年までをご紹介します。

2018	5.30	大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ(以下HSC)『忘れられた明石八景 一俳諧師・西山宗因一』
	6.13	HSC『基本イメージから考える英語の前置詞・副詞 一空間を表す語を中心に一』
	7.20	HSC『地震の話 一実験してみよう!どこまでできそう?地震予知!一』
	10.31	HSC『哲学カフェ 一「罪悪感」とはなんだろう「選ぶ」とはどういうことだろう一』
	11.28	HSC『記憶から歴史を物語る一大蔵地区の記憶継承の拠点構築に向けて一』
2019	1.23	HSC『アタシノアカシ第三弾 一声で届ける物語一』
	2.20	HSC『明石原人って何? ~明石人と日本の旧石器時代~』
	5.22	HSC『新元号「令和」と明石』
	6.4	『くずし字解読講座』スタート
	6.26	HSC『こんばんは、夜勉強です』
	7.31	HSC『スコットランド:ウイスキーとツーリズム』
	10.30	HSC『明石と蛸、そして芭蕉』
	11.20	HSC『日本語を分析してみる』
	12.25	HSC『絵画に描かれたクリスマス』
	2020	2.5
7.22		HSC特別編『明石の和歌』オンライン配信開始
9.24		Youtube「明石ハウスちゃんねる」開設
2022	2月	『明石ハウス通信』創刊
	3.16	『オンラインくずし字解読講座』配信開始
	3.28	『アタシノアカシ』上演(於有瀬キャンパス)
	7.21	『アタシノアカシ』上演(於有瀬キャンパス)
	8.7	HSC2022『シンポジウム 海のまほろば 一明石で始める 風土と暮らしの人文学一』(於ウィズあかし)
2023	1.17	『アタシノアカシ』上演(於有瀬キャンパス)

小中高校生対象のワークショップ。実験を通して、地震予知の難しさを体験しました。



この企画以降、明石ハウスでは、地域の方からご提供いただいた大正~昭和頃の写真を展示しています。

シリーズ企画「明石の文学」がスタート。

身近な日本語への気付きを、実感を通して得るワークショップ企画。



2.19にHSC『明石ゆかりの歌人・詩人たちと梅』を予定していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大により中止に。

大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェの再開として、シンポジウムを開催しました。



写真展示企画(2019-現在)

地域の記憶の継承を目的に、地域の方々からご提供いただいた大正・昭和期の写真を展示しています。写真にうつる行事や生活の様子について、思い出などをおうかがいしています。

くずし字解読講座(2019-2020)

2013年度の「ものかき塾」に倣ってスタートした企画です。江戸時代後期、文化元年(1804年)に出版された播磨地方の地誌『播州名所巡覧図絵』を教材に、地域の方々にくずし字の読み方を学ぶというのが、当初の目的でした。次第に、昔と今の明石のあれこれについて、活発な議論が交わされるようになりました。

新型コロナウイルスの流行により2020年2月でやむなく休止となりました。翻字と注釈、現代語訳に加え、ご提供いただいた情報や席上で交わされた議論などをまとめた報告書を、2021年1月に発行しています。

明石ハウスちゃんねる(2020-現在)

コロナ禍の中での活動として、Youtubeに開設しました。大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェの一環として教員が作成したオンライン講座や、『源氏物語湖月抄』を使ったくずし字解読講座を配信しています。



明石ハウスを活用した写真展示
(2022年)



『播州名所巡覧図絵』巻二「大倉谷」

地域研究センター既刊紹介

神戸学院大学地域研究センターでは、報告書など、さまざまな冊子を発行してきました。その一部をご紹介します。

稲爪神社秋祭り調査報告書(2011年度/2012年度) ※PDF公開中

文化人類学を専攻する学生が作成した、フィールドワークの報告書。獅子舞・早口流しをはじめ、一連の神事を撮影した写真に、聞き取り調査を元にした考察を付して報告しています。

大蔵谷なう。(2012年/2013年/2016年)

地域の方々のご協力のもとに学生が作成したフィールドワークの報告書。地域で事業を営む方や昔からお住まいの方へのインタビュー、古民家などの建築の紹介、歴史遺産の調査、商店街や山陽電車の紹介、アート解説など、それぞれバラエティに富む内容の冊子です。

明石グループ 研究成果報告書(2012年～2014年) ※PDF公開中

明石地域での学生・教員の研究活動を集成した報告書。明石市・大蔵地域を中心に、長田地域や淡路島を含む地域研究センターのフィールドワーク活動の成果、各教員の専門分野に関わる研究の成果など、多様な報告を掲載しています。

大蔵谷 輪・話・和の記(2014年発行)

2014年に明石ハウスで行った「今からはじめよう！ものかき塾 書いて残す、思い出の街、思い出の人」の成果報告書。10名の参加者の方々が執筆された「自分史」を集成しています。

大蔵地区フィールドワーク 撮影成果報告(2017年発行) ※PDF公開中

2017年度の1年次後期矢嶋ゼミによる大蔵地区フィールドワークの報告書。環境と営みの歴史を学んだ上で、街並みや海岸・地域猫など、各自がテーマに基づいて撮影した写真に、学生自身による解説文を付しています。

「くずし字解読講座」活動成果報告書(2021年発行)

上記「くずし字解読講座」の活動報告書。講座参加者からはご寄稿も頂戴し、充実した内容となりました。

「アタシノアカシ」アンソロジー1・2(2022年発行)

学生による創作演劇「アタシノアカシ」の脚本集。人文学部の中山文ゼミに所属する三回生が、明石に関する題材を探し、戯曲の執筆・上演を行ってきました。各巻に15作品の脚本と、上演記録、舞台写真などを掲載しています。



「大蔵谷なう。」

Webサイト(<https://card-kobegakuin.jp/report/>)にて一部の報告書のPDFファイルを公開しております。非公開のものをご希望の方は、地域研究センターまでお問い合わせください。



教員紹介 福島 あずさ 准教授

(気候・気象学)

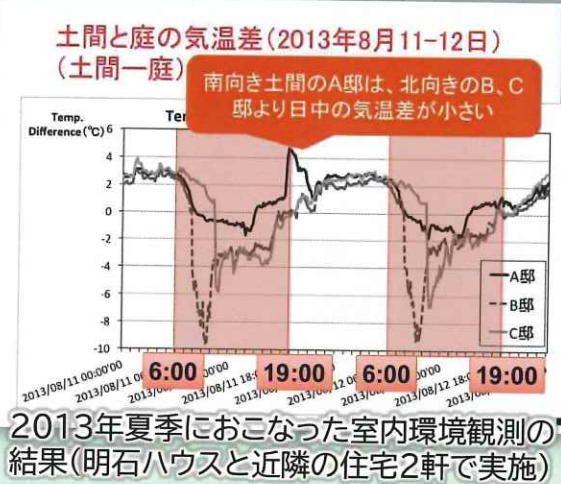
Q：研究について教えてください

専門は、アジアモンスーン地域の気候・気象学で、ヒマラヤ山脈周辺のネパールやインド北東部の雨の降り方の季節変化とその要因・長期変動などについて研究してきました。最近では、インド・アッサム州(紅茶の産地)の茶園に残る気象観測の記録を集めてアーカイブするデータ・レスキューや、地域研究長田センターの気象観測記録を活用した神戸の海風に関する研究、それに関連して海陸風と熱中症搬送者数の関係についての調査研究など行なっています。



インド・アッサム州の茶園のマネージャー(写真中央)と

Q：明石との関係について教えてください



古い街並みや建物が好きで、着任後すぐ大蔵谷の街並みに関心を持ちました。「古い家は住みにくい」と言われますが、温熱環境からみるとどうなのか、どうしたら住みやすい環境になるのか研究してみたいと思っていたところ、地域研究センターを通じて町家を維持されている家主さんにご縁ができて、観測を実施することができました。その後、香川の宇多津町でも同様の調査を行い、両地域に共通して古民家に合わせた「住まい方」が重要で、夏は葦戸に交換したり、土間に打ち水をしたりして風通しをよくし、冬は石油ストーブやこたつなど早く暖まる機器や局所暖房を使うなど、古民家の室内環境特性に合わせた暮らしが営まれていることを知りました。環境は「それをどう使うか」で人がいかようにも変えうるのだと気付かされた貴重な経験です。

Youtube 連動企画

くずし字解読講座

▼カタカナと仮名

現在のカタカナは、外来

語やオノマトペの表記などに使われています。ひらがなの用途とは異なるものです。そのため、カタカナとひらがなを混同することはまれです。

しかし、カタカナもまた、漢字から派生した文字です。そして、カタカナの中には「変体仮名」を兼ねていた字つまり、ひらがなと同じように用いられていた字があります。

な(奈)くては(ハ)

み(ミ)だ(多)れ

例えば、カタカナの「ハ」の字母は「ハ」、「ミ」の字母は「三」です。同音のひらがなの「は(波)」「み(美)」とは、形が異なります。そのため、現在の感覚からすると、右の二例はひらがなにカタカナが混入しているように見えてしまいます。ですが、この二字は、ここでは「ひらがな(変体仮名)」として使われています。「ミ」や「ハ」に見えるからと言って、特別な役割や意味は持っていません。

他に「セ(世)」「ニ(二)」「ノ(乃)」も、ひらがな(変体仮名)としてもよく使われる字です。

▼点に変化する横画

現在のひらがなの「ま」は「末」を、「よ」は「与」を字母とします。字の構造は現在のひらがなと共通するはずなのですが、形が似ていないように見える場合があります。

ひらがなの「ま(末)」の一面目は横画(一)です。これをそのまま横画として書くと、次の画の始点とは逆の方向へと筆が移動します。画と画を連続させる(筆先を紙に付けたまま次の画を書き始める)には不都合な形です。そのため、横画(一)を点(丶)に置き換えた字形が、しばしば見られます。

ま(末)

よ(与)

右の「よ」は、一面目の位置そのものが、二画目の真上に移動しています。そして、点の終わりの直後から次の画が始まっています。これらは、字を一筆で書くために生じた字形の変化です。このために、「現在のひらがなと同じ字形なのに、見た目が違う」ということが起こります。このような点画の変化は、見慣れてしまえば容易に把握することができます。

明石ハウス NEWS

神戸学院大学 明石ハウス

検索

古い写真を探しています

もし大蔵谷の古い写真をお持ちでしたら、拝見させていただきませんか。差し支えなければ、そのコピーを取らせていただき、神戸学院大にデータをコレクションさせてください。その写真についての思い出や、ご存じのことをお話しいただければ、なおさらありがたく存じます。

(とりわけ、大蔵海岸周辺の写真を探しております。)

稲爪神社でシェイクスピア?! ——『リア王』リーディング上演

稲爪神社をお借りして、人文学部の中山文ゼミの3回生が『リア王』(シェイクスピア原作)のリーディング上演を行います。例年の創作演劇とはまた異なる活動に、学生が挑戦します。是非ご高覧ください。

学生による上演・アフタートークのほか、長谷川弘基教授(英文学)による解説も予定しています。

日時 7月23日(日) 11:00~13:00(予定)

場所 稲爪神社 社務所

※ 申し込み不要・参加無料です。

稲爪神社に 顔出しパネルを奉納

神戸学院大学の美術部鷗風會が、3月2日、制作した顔出しパネルを稲爪神社に奉納しました。菅谷誠夫宮司のご依頼を人文学部の矢嶋巖教授が仲介し、制作と奉納が実現しました。

同社の縁起に登場する、推古天皇の時代に異国から襲来した鉄人をイメージしています。拝殿前に設置される予定です。

2021年度 地域研究センター研究・活動報告書を Webサイト上で公開しました

2022年3月に発行した2021年度の研究・活動報告書のPDFファイルを、地域研究センターのWebサイトで公開しました。新型コロナ流行下で活動を模索していた時期の報告が主体です。稲爪神社の祭祀や地域の文化財、食文化、文学史など、バラエティに富む内容です。

Youtube「オンライン くずし字講座」配信中



Youtube
明石ハウスチャンネル



地域研究センター
Webサイト

コロナ禍で中断となりました「くずし字解読講座」を引き継ぐ企画として、「オンラインくずし字講座」をYoutube「明石ハウスチャンネル」にて公開しています。

江戸時代に出版された『源氏物語』の注釈書『湖月抄(こげつしょう)』の「明石」の巻を使ってくずし字を学ぶという企画です。4月にリニューアルしました地域研究センターのWebサイトでも、関連記事の掲載を行っています。

明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

山陽電鉄 大蔵谷駅 徒歩5分

